



上峰町

【保存版】

ため池ハザードマップ

五万ヶ池、耕地整理、谷渡、上の新立、下の新立、袋ヶ原
定時民、西の堤、東の堤、外記、イモゼ、掛入、京塚



五万ヶ池全景



耕地整理全景



船石全景



外記全景

令和5年3月作成

ため池ハザードマップに関するお問い合わせは

上峰町役場 産業課 TEL: 0952-52-7415

ため池
決壊想定
イメージ

1 大規模地震により堤防が破損、大雨で増水

・・・亀裂や堤防前面の滑落など

2 大雨等でため池の水位低下が困難

・・・亀裂や堤防前面の滑落箇所からの漏水など

決壊地点直下の地域の建物や車は押し流される可能性があります。

※今回のため池ハザードマップ作成については、今後発生が予想される大規模地震などにより、ため池が決壊した場合を想定しています。

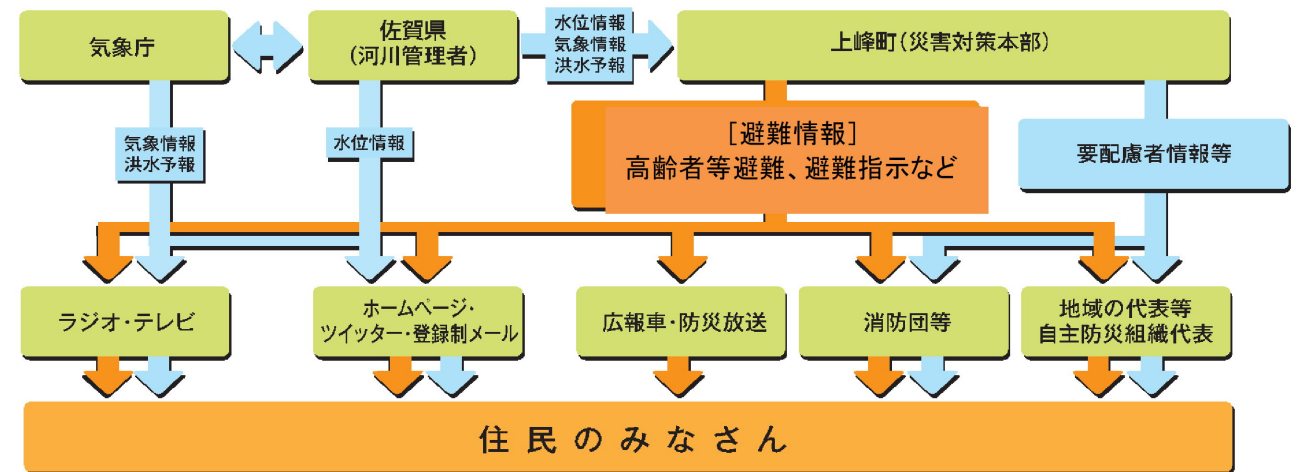
高台に避難してください！

町からの避難情報に注意しよう！

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~~			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(注)
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない  
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである  
(注) 避難指示は、令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令する

●気象の異常に対して、下図の伝達ルートに皆さんへお知らせします。



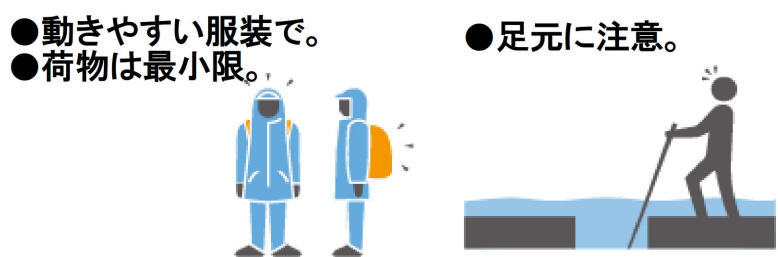
情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

## 避難情報等がだされたら速やかに避難しよう



### ～早期避難のススメ～

避難は、可能な限り浸水被害が発生する前に行ってください。ため池の決壊後の避難は危険ですので、注意してください。



### 地震のあと

被災状況(防災無線の故障、広報車の通行不可、停電等)により、通常の手段を通じた情報の入手が困難になります。そのことを前提と考え、憶測やデマに惑わされず、冷静に事態に対応しましょう。

災害発生時の避難情報  
入手における注意点

### 大雨のとき

大雨時は家屋内にいる場合が多く、防災無線・広報車の呼びかけが雨の音で聞こえにくい場合があります。テレビやラジオ、インターネットなどから、自主的な情報収集を心がけましょう。

## 地域防災力の向上に向けて

災害(大雨、洪水、地震)は必ず発生します。もしかすると、明日発生するかもしれません。将来予想される大規模な災害に対応するためには、自助・共助・公助の取り組みとともに、地域の防災力を向上させていくことが重要です。

### 「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」

■災害をイメージして、日常から自分で対策を考えることが大切です。

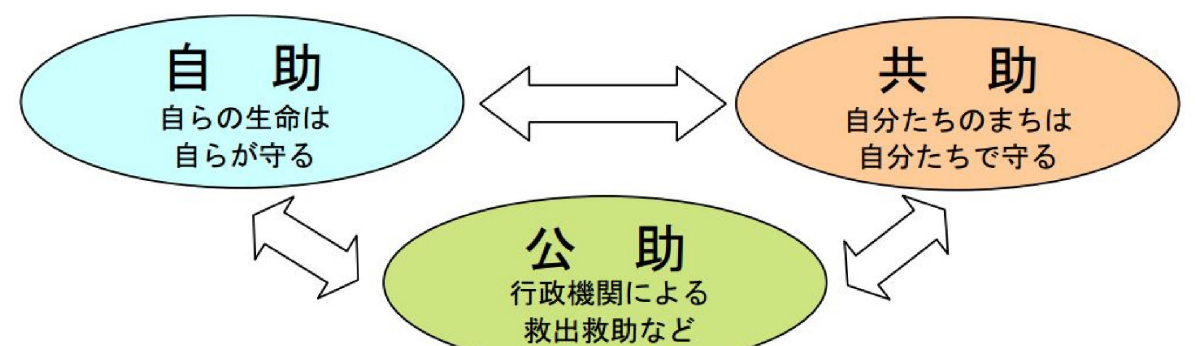
1. **災害を知る**  
「どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるか」
2. **まちを知る**  
「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」  
「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるのか」
3. **人を知る**  
「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」  
「近所に手助けが必要な人はいないか」



### 「自助」「共助」「公助」

■災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」連携が不可欠です。

1. **自助**  
「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。
2. **共助**  
近所の人たちと協力して、お互いに助け合うこと。
3. **公助**  
役場・警察・消防といった行政機関が取り組むこと。



それぞれが、災害対応力を高め、連携することが重要

地域防災力を高めることが、災害に強い地域を作る事に  
つながり、一人でも多くの命を救うことにつながります。